北海道大学病院
HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL

北海道大学病院地域医療連携福祉センター

NEWSLETTER 7

2026.

ご挨拶

病院長　　南須原　康行

病院長挨拶　～令和8年度診療報酬改定を受けて～

平素より本院の診療および地域医療連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和8年度診療報酬改定では、大学病院本院が「高度医療の拠点」であると同時に「地域医療の担い手」であることが、これまで以上に明確に位置づけられました。この両輪を不可分のものとして果たすべく、本年度より北海道内の3つの医育大学病院と北海道庁との間で、未来の北海道の地域医療を共に守るための話し合いの準備が進んでいます。

がん診療をはじめとする高度専門医療では、国の方針として「集約」と「分散」の両立が求められていきます。本院は、各地域の基幹病院がその役割を十全に果たされるよう連携を強め、必要な患者さんをお引き受けし、また地域へお戻しするという双方向の流れを、設計してまいりたいと存じます。

北海道の地域医療を、皆様と「共に守り、共に育てる」存在でありたいと願っております。本年度も忌憚のないご意見を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お知らせ　本年度の地域連携懇話会の日程について

本年度は、**11月13日（金曜日）**の開催とさせていただきます。開催場所は、例年同様、**札幌駅周辺**を予定しております。後日、詳しいご案内を送付差し上げますので、今しばらくお待ちください。

前号（2026年2号）記事内容の一部訂正

前回2026年2月発行のNewsLetter内、消化器外科Ⅰ特集において、
担当領域について、誤りがありました。正しくは下記の通りとなります。

誤：消化器疾患(肝臓、**胆道、膵臓、**腸)
正：**消化器疾患(肝臓、腸)**

以上、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

前立腺がんの最新診断・治療

当院の体制のご紹介
～泌尿器科・放射線治療科・核医学診療科～

糖尿病・内分泌内科

ダイアベティスマネジメントセンターのご紹介
肥満症治療、内分泌疾患について

前立腺がんの最新診断・治療

核医学診療科 担当医

診療科長
平田 健司
診療教授

外来医長
渡邊 史郎
助教

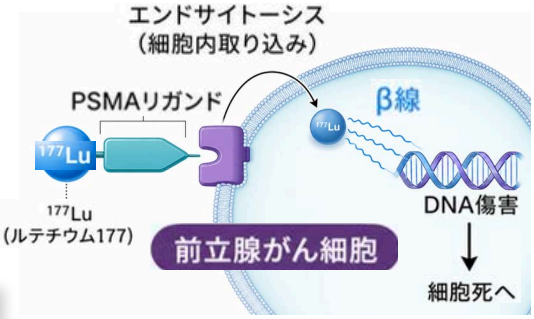
PSMA-PET検査について ※ PSMA…Prostate Specific Membrane Antigen

PSMA-PET（^{68}Ga-PSMA11：商品名ロカメッツ®）は、前立腺がん細胞に発現するPSMAを標的として病変を描出するPET検査です。後述するPSMA治療が奏功するためには、前立腺がん細胞がPSMAを発現している必要があります。本検査は、転移を有する去勢抵抗性前立腺がんでPSMA治療の適応が見込まれる症例に対し、適応判断を行うために必須の検査です。

また、全身における病変の広がりを把握することで、その後の薬物療法や放射線治療の方針決定にも役立ちます。当院では核医学診療科・泌尿器科・放射線治療科が連携し、質の高い検査・治療を提供しています。

PSMA治療について

PSMA治療（^{177}Lu-PSMA-617：商品名プルヴィクト®）は、新規の放射性リガンド療法です。PSMA-PETで集積を確認した病変に対し選択的に放射線を照射し、腫瘍縮小と症状緩和が期待されます。新規ホルモン剤治療後の症例において生存期間延長効果が報告されており、治療選択肢の一つとして注目されています。



Lu-PSMA療法 概要図
（生成AIで作成したイメージ図）

副作用には骨髄抑制や口渇などがありますが、化学療法と比べて負担が少ない治療です。
ご紹介いただける症例がございましたら、ぜひご相談ください。

PSMA検査・治療の受診フロー

01 泌尿器科 紹介
PSMA-PETの適応判断

02 PET-CT撮影
最速で当日撮影

03 レポート発行
原則 翌営業日に作成

04 治療方針の決定

PSMA治療 適応あり
当院または他院にて治療

適応なし
他の治療法を検討

お問合せ先
PSMA-PET検査について 011-706-5701 PET検査受付
PSMA治療について 011-706-5772（5773）泌尿器科外来
（平日8:30～17:00）

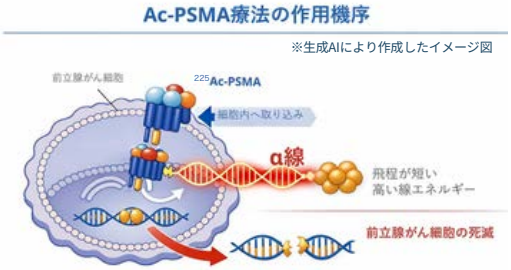
前立腺がんへの総合的な対応

手術・薬物療法について

北大病院では、限局性前立腺癌に対し、手術・放射線治療・監視療法の各選択肢について、リスク分類に応じた適応や、リスク・ベネフィットを丁寧に説明しています。そのうえで、患者さんの価値観やご希望を尊重したshared decision makingを重視し、最適な治療方針を決定しています。

手術はダビンチXiを用い、可能な限り神経温存に配慮した術式を採用しています。高リスク症例に対しては拡大手術に加え、企業治験や自由診療でPSMA-PETを積極的に併用して治療成績向上を目指していきます。

薬物療法は、保険適応となっている標準治療以外に企業治験を多数施行しており、新規治療法の開発と治療成績の更なる向上を目指しています。特に、新規核医学治療^{225}Ac-PSMA療法の臨床試験も多く行っています。



陽子線療法後再発症例に対する
ロボット支援前立腺全摘除術
(PSMA-PETを用いて適応を十分検討して施行)

泌尿器科 担当医

診療科長
安部 崇重
教授

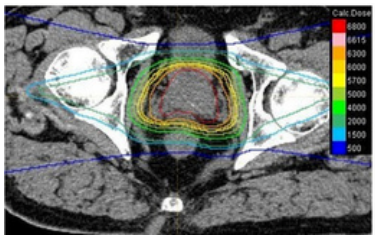
医局長
松本　隆児
講師

宮田　遥
助教

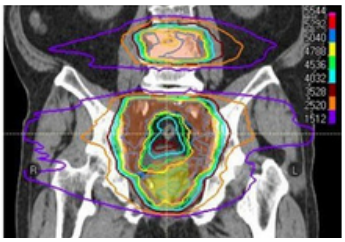
放射線治療について

限局性前立腺癌に対しては陽子線治療、強度変調放射線治療を行っており、どちらも保険適応のため、近年では多くの患者さんが陽子線治療を選択されています。また、治療精度向上や晩期有害事象の低減につながる、金マーカ、スペーサーの留置による動体追跡放射線治療をほぼ全例に行っております。

リンパ節転移や骨転移陽性例といった進行例でも集学的治療の一部として、強度変調放射線治療を用いて積極的に根治的治療を行っており、良好な成績が得られています。特に近年では5個程度までの少数個の転移に対する体幹部定位照射の有効性が明らかになっており、初期治療後の後発のリンパ節や骨転移に対しても積極的に治療を行っております。



限局性前立腺癌への陽子線治療



進行例への強度変調放射線治療

放射線治療科 担当医

診療科長
青山　英史
教授

医理工学院長
橋本　孝之
教授

森　崇
助教

お問合せ先

手術・薬物療法について　011-706-5772（5773）泌尿器科外来
放射線治療について　011-706-5776（5777）放射線科外来
（平日8:30～17:00）

ダイアベティスマネジメントセンターの取り組み

糖尿病・内分泌内科　亀田先生インタビュー

ダイアベティスマネジメントセンターの特徴を教えて下さい。

当センターでは、ダイアベティス（糖尿病）のある方を対象に、糖尿病の合併症や併存症について包括的評価を行っています。特徴の一つは、複数診療科・部門が連携し、1回の受診で集中的な検査と評価ができる点です。糖尿病は、肝臓・心臓・腎臓・眼・筋肉・骨など多くの臓器と密接に関係しています。そのため、当科だけでなく消化器内科、循環器内科、腎臓内科、眼科、管理栄養士、糖尿病認定看護師などの専門家が連携し、診察および検査を行う体制を整えております。通常の合併症検査に加えて腹部エコー・全身CT・骨密度・体組成・24時間血圧測定・持続血糖測定などの詳細な検査を行っております。

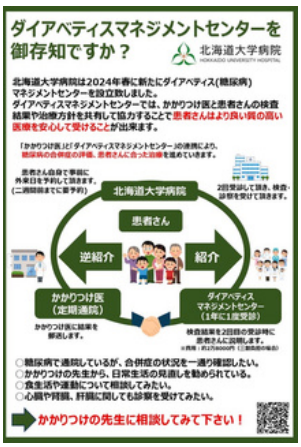
下記の受診フローのように、初回受診の際に包括的検査を行い、2週間後以降に、患者さんへ検査結果等についてご説明するとともに、ご紹介いただいた先生にも各科の所見も含めた総合的な診療情報提供書をお返ししております。

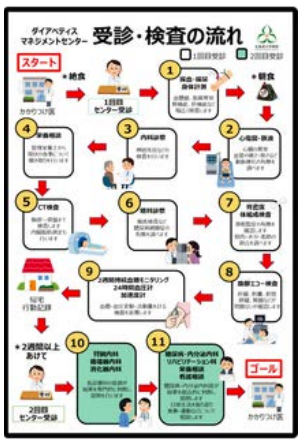
ダイアベティスマネジメントセンターの受診フロー

どのような患者さんを対象としているのでしょうか。

糖尿病の患者さんであれば、どの段階でもご紹介いただいて構いませんが、特に合併症や併存症の包括的な評価をまだ実施されていない患者さんについては、一度ご紹介いただくことをお勧めしております。糖尿病を専門としていないクリニックの先生方におかれましては、「一度きちんと評価したほうがよい」と感じた段階で、早めにご紹介いただくことが、予後の改善につながるため、ぜひご紹介をお願いできればと考えております。

ご紹介の流れについては受診チェックリスト（別紙）や当センターホームページをご覧ください。ダイアベティスマネジメントセンターホームページQRコード





紹介のタイミングに目安はありますか。

糖尿病の診断がついておりましたらどの段階でもご紹介いただいて構いません。特に、CTや腹部エコー、眼科検査を含めた全身評価により、他の疾患が見つかる場合もありますので、いつの段階でも有用だと思っております。

お問合せ先

検査について（平日9:00～15:00）
011-706-8547（ﾀﾞｲｱﾍﾞﾃｨｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ）

患者用予約電話
011-706-7733（北海道大学病院予約受付専用窓口）
※“ﾀﾞｲｱﾍﾞﾃｨｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ”の予約であることを必ずお伝えください。

手術から薬物療法まで 広がる肥満症治療

肥満症治療についても力を入れていると伺いました。

中村 昭伸

亀田 啓

曺 圭龍

大森 一乃

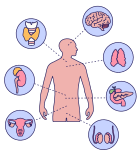
関崎 知紀

千葉 幸輝

はい。近年、肥満症治療は手術療法（スリーブ状胃切除術）に加え、薬物療法の適応も広がっております。当院ではいずれの治療も行うことができ、患者様のニーズにあった治療法を相談していきます。肥満症は、脂肪性肝疾患や心不全、腎疾患など多くの疾患と関連しており、専門的な評価と管理が重要です。「紹介してよいか迷う」という声もありますが、BMI27以上の患者さんで肥満関連健康障害を有する患者さんは薬物治療の適応となる可能性がありますので、お困りの症例がありましたら、ぜひ一度ご相談いただきたいと思います。

内分泌疾患が疑われた際はご相談を

内分泌内科についての紹介をお願いします。



内分泌分野では、下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺、性腺などの内分泌疾患全般を幅広く診療しています。高血圧や糖尿病などの代謝疾患が治療を行っても難渋する場合には、原発性アルドステロン症やクッシング症候群、先端巨大症などの内分泌疾患が背景にあることがあり、専門的な原因精査が必要となります。

また、骨粗鬆症の診療も行っており、原因不明の骨粗鬆症や骨折を繰り返す症例では内分泌疾患や骨希少疾患を含めて総合的に評価・診療させていただきます。下垂体手術後などで下垂体機能低下症が疑われる場合には、クリニカルパスを用いた短期間での集中的な評価も可能です。このように、内分泌疾患の可能性が少しでも疑われる症例について、段階を問わず幅広いコンサルトを受け付けています。

最後に、地域の医療機関の先生方へメッセージをお願いします。

「紹介してよいか迷う」事例は
ぜひ一度ご相談ください

糖尿病・内分泌内科ならびにダイアベティスマネジメントセンターは、評価・治療を行った後、結果を丁寧にかかりつけ医の先生へお返しし、地域での継続診療につなげることを大切にしています。
気になる症状が感じられた時点で気軽にご相談いただければと思います。

お問合せ先

011-706-5753　糖尿病・内分泌科外来
（平日8:30～17:00）

information 予約方法のご案内

医療機関からの紹介予約について

北大病院　紹介予約

患者さんを北大病院へ紹介いただく場合はFAXにてお申し込みください。

受付曜日：月～金
受付時間：8時30分～17時00分（16時30分以降の受付は翌日対応になります。）

※翌日の予約は15時00分までにお申し込みください。

電話番号：011-706-6037
FAX番号 ：011-706-7963
医事課新来予約受付担当・紹介予約

患者さんからの予約申込み方法

［予約受付専用窓口］
TEL.011-706-7733

精神科神経科受診の場合は、
011-716-1161（代表）にお電話をお掛けください。
リハビリテーション科受診の場合は、
011-716-1161（代表）にお電話をお掛けいただき
「リハビリテーション科受診予約希望」の旨をお伝えください。

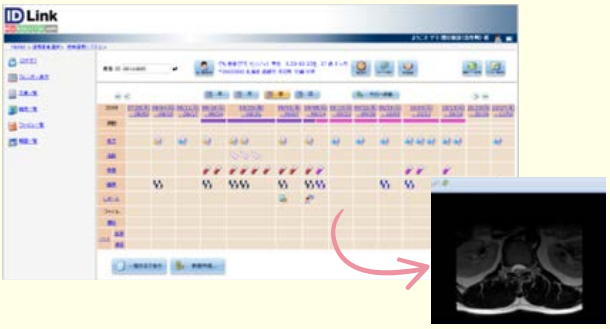
電話予約の際は以下の内容を確認させていただきます

- 氏名
- 性別
- 生年月日
- 連絡先（住所・電話番号）
- 受診希望の診療科
- 北大病院の受診
- 紹介元医療機関名
- 紹介状に記載の宛名

［予約受付時間］
平日9時00分～16時00分（翌日の予約受付は15時00分まで）

information ID-LinkによるICT連携のご案内

当院では、患者さんの診療情報を共有する地域医療連携ネットワークサービス「ID-Link」を導入しております。
この度、地域の医療機関の皆さまへの情報提供を開始いたしましたので、お知らせします。また、ID-Linkを通じた情報共有を推進しており、連携機関の拡充を図っております。



つきましては、当院へご紹介いただいております患者さんの診療情報の参照を希望される場合は、下記申請フォームにてご申請くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、当院地域医療連携福祉センターのHPより、ご確認ください。

閲覧可能な情報

入退院情報・処方・注射・検体検査・DICOM画像・放射線検査オーダ・生理検査・食事・内視鏡検査・退院時要約・簡易サマリ（病名・アレルギー）・身長、体重、血液型

申請はこちらから

北海道大学病院

発　行
2026年7月

北海道大学病院地域医療連携福祉センター
〒060-8648　札幌市北区北14条西5丁目
TEL：011-706-7943　FAX：011-706-7945
https://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/